

春遠からじ、今年は「6年生感謝週間」に！

昨年度の1月を振り返っていましたが、1月の半ばにインフルエンザによる学級閉鎖が3学年ありました。しかし、この冬はコロナの影響かインフルエンザは流行せず、風邪等で欠席する子も少ない状況です。しかし、今なおコロナ感染防止による緊急事態宣言が都市部の都府県で発令中です。滋賀県もステージ3で、連日多くの感染者が報告されています。マスク着用、手洗い、消毒は生活の重要な一部となりました。



1月16日(土)・17日(日)に初めての大学の共通テストが行われました。その時代に合った学力を求めめるため、試験の形も時代と共に変遷します。私は、1979年国立1期校・2期校に代わる統一テスト共通一次試験第一期生でした。いわゆるマークシートの始まりで、滋賀大学経済学部で受験したのを覚えています。息子は、センター試験を受験と、試験の形は時代を映す鏡となっています。どうか受験生に良き春が来ることを願います。



さて、今年の「節分」は2月2日(火)です。「節分」は3日とは決まっていはいないようです。天文学的に太陽と地球の動きによって日が移動するそうです。昭和59年は「節分」が4日でありました。また、2日となったのは明治30年で、何と124年ぶりだそうです。大事にしたいことは、「節分」で行う風習、豆まきや豆をいただくこと、柊翹など伝わる意味を重んじ、家庭で行えればと思います。子ども達は、家で行われるそれぞれの風習やしきたりを体で受け継いでいきます。体の育ちと共に、心の育ちにも繋がる大事なものです。ぜひご家庭でのひと時を共に過ごし、後世に伝えていただければと思います。



1月22日(金)には「校内かるた大会」を行いました。コロナ感染防止の観点から例年とは実施方法を変え、対戦を少なくし時間を縮小しました。しかし、詠み手には若林憲秀先生に今年もお越しいただき、札を詠んでいただきました。この行事では大切にしたいことは、百人一首を誦んじることができるということもありますが、かるた大会での所作、作法を学ぶことにあります。若林先生に詠んでいただきますと、場の空気が凛として緊張感があります。また、子ども達の動作がきびきびとして見ていてすがすがしい気持ちになります。こうした目には見えない伝統を私はずっと残していきたいと思います。



今年度は、コロナ感染拡大防止の観点から、従来の「6年生を送る会」を22日(月)からの1週間、「6年生感謝週間」として実施します。日替わりで学年部ごとの発表という形になります。例年とは形式が異なりますが、趣旨をご理解願ひ、ご参観いただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。



「青い目の人形」を頂きます

昨年朝陽同窓会主催の「青い目の人形」の劇を観て、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。その後、6年生の子ども達を中心に当時青い目の人形を配られたギュリックさんのお孫(三世)様に手紙を書きました。すると、ギュリック三世様のご厚意により本校に青い目の人形をくださることになりました。裏面にありますように、その贈呈式を計画しております。本校に宝が1つ増えます。〈文責：校長 正野新造〉

